アマミテンナンショウ節

和名（標用名・別名）	高さ	葉（枚数）	放射状複葉・鳥足状複葉	葉の特徴（葉柄・小葉柄・葉軸）	花期／果実熟期	仏炎苞（色）	筒部の特徴	舷部の特徴	口縁部の特徴	花序・葉の展開時期	花序付属体	偽葯部	分布	特筆事項
■シママテンナンショウ（ヘンゴダマ）	20 ～ 60cm	2	鳥足状	小葉は９～１５枚。狭楕円形で両端は次第に狭まる	１月～３月／７月～８月	■緑色	やや太い筒状（筋は入らない）	卵形（並状の縁れ）	狭く反り返る		緑色（しばしば紫色）。棍状（先が広炎苞の外に出る）		本州（伊豆諸島）	朔状葉は茎貫で筒状に巻く
○オキナワテンナンショウ	１５～５０cm	２（３）	鳥足状	小葉は１１～１９枚。狭楕円形～楕円形（外側に向かって小さくなる）		■濃紫緑色	白い縦筋（上に開いたやや細い円筒状）	外側は紫緑色。内部が紫褐色		遅咲き	棒状（直立し広炎苞の内）		沖縄県	アマミテンナンショウに比べて背が高い。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○オオアマミテンナンショウ	２５～６０cm	２（３）	鳥足状	小葉は１６～２９枚。広楕形～倒披針形（外側に向かって小さくなる）		■緑色	白い縦筋（上に開いた円筒状）	卵形（前に曲がる）	付属体が口縁部から露出	遅咲き	長い太棒状（先は細ときない）	現存のない場合が多い	他之島・屋久島（低地）	絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○アマミテンナンショウ	１５～５０cm	２	鳥足状	小葉は１３～２１枚。広楕形～倒披針形（外側に向かって小さくなる）		■緑色	白い縦筋（上に開いたやや細い円筒状）	卵形（前に曲がる）		遅咲き	棍棒状（先が広に膨らむ）		他之島・奄美大島（山地）	絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］

ウラシマソウ節

和名（標用名・別名）	高さ	葉（枚数）	放射状複葉・鳥足状複葉	葉の特徴（葉柄・小葉柄・葉軸）	花期／果実熟期	仏炎苞（色）	筒部の特徴	舷部の特徴	口縁部の特徴	花序・葉の展開時期	花序付属体	偽葯部	分布	特筆事項
■マイヅルテンナンショウ	４０ ～ ８０cm（大型１５０cm）	１	鳥足状	小葉は１７～２１枚。頂小葉は小さい（脇の小葉に比べ）	６月／１０月～１１月	■緑色	縦長い	卵形（基部は丸く開出）		遅咲き	棍状（苞外に出て直立）		本州・四国・九州	草原性の品種で小葉の先端は急に尖る。絶滅危惧Ⅱ類（VU）［環境省］
○テンゴクウラシマソウ	３０ ～ ６０cm	１	鳥足状	濃緑色。小葉は１１～１７枚。広楕形～披針形。主脈に沿って白斑	３月～５月／１１月～１２月	■紫色	太い筒状（上にやや開く）	三角状広卵形で先が細く狭まる	くびれてから反曲		口縁部で膨らみ白色の棍かい袋		本州（近畿・中国）・四国・九州	ウラシマソウより高く暗い場所に生育
○ウラシマソウ	３０ ～ ６０cm	１	鳥足状	濃緑色～緑色。小葉は１１～２１枚。狭楕円形（両端が狭まる）	３月～４月／１１月～１月	■紫色	5cm～	広卵形で先が細く狭まる	開出して紫褐色		紫褐色で平滑。糸状に伸びて立ち上がり、下に垂れ下がる		北海道南部・本州・四国東北部、九州北部	光沢のある小型（ときに白斑）
○ヒメウラシマソウ	１５ ～ ３０cm	１	鳥足状	小葉は７～１３枚	５月／１１月	■紫色	3cm～４cm	三角状広卵形。外面は無緑色に白い筋	内側に白い丁字紋		付属体の基部は太く次第に細まる（それほど長くない）		本州西部（山口県）・九州	ウラシマソウより小型（付属体もそれほど長くならない）

マムシグサ節

和名（標用名・別名）	高さ	葉（枚数）	放射状複葉・鳥足状複葉	葉の特徴（葉柄・小葉柄・葉軸）	花期／果実熟期	仏炎苞（色）	筒部の特徴	舷部の特徴	口縁部の特徴	花序・葉の展開時期	花序付属体	偽葯部	分布	特筆事項
■ミツバテンナンショウ	１２ ～ ３０cm	１ ～ ２	放射状	無柄の３小葉。微新面。先は短く尖る	４月～５月／１０月	■淡褐色（■赤紫色）	上に開いた筒状	卵形で先は短く尖り前に曲がる。平坦	耳状に広く開出	早咲き	広炎苞と同色で基部が有柄（棒状～太棒状で直立）		本州（静岡県・山口県）・四国・九州	葉の縁に細い新面
△ムサシアブミ	～７０cm	２	放射状	無柄の３小葉（菱状楕円形）。全縁。先は尾状に尖る	２月～４月／１１月～１月	■外面は緑色、内面が■黒紫色または■緑色	外面が粉白色を帯びることが多い	鎖状に膨らむ		花と葉は同時展開	白色（有柄で棒状）	短い	本州（愛知県・福井県以西）・四国・九州・沖縄県	仏炎苞両面に白い縞。戦時品の逸出も多い
■ヒロハテンナンショウ	１５ ～ ７０cm	１または２	鳥足状・掌状	５枚以上の小葉（葉軸は発達しない）	５月～６月／９月～１０月	■緑色または■紫褐色	平行に隆起する白色の縦筋	広卵形～狭卵形（先が尖る）	内面と同色の耳状部	遅咲き	有柄で棒状（ときに太棒状）	葉柄部より短い	北海道南部・本州・九州北部	西日本では小葉が細くて尖る傾向（花は葉の下に隠れて咲く）
○○アシウテンナンショウ		１	放射状			■紫褐色			癒着		棒状		若狭湾周辺地域（＊地域的なまとまりはなく、北海道から九州にかけて広く分布する）	花序が葉に比べて大きい（花は葉の下に隠れて咲く）
○カラフトヒロハテンナンショウ	１５ ～ ５０cm	１または２	放射状	小葉は５～９枚。葉軸はやや発達（楕円形～披針形）	５月～６月／１０月	■緑色	平滑な白色の縦筋	卵形（先は尖る）	狭く開出	遅咲き	棒状～棍棒状（頭部より先が外に出る）	葉柄部と同長（現穀なし）	北海道（利尻島・礼文島）・カラフト	アムールテンナンショウと伊豆諸島の中間的な性質を示す（小葉数がより多い傾向）。絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○イナヒロハテンナンショウ	２５ ～ ５０cm	１	放射状	小葉は５～７枚（葉軸は発達しない）。狭楕円形で先は尖る。全縁	５月～６月／９月～１０月	■淡紫褐色（やや■緑色を帯びる）	隆起する白色の縦筋	卵形～倒卵形（先は尖り筒部より長い）	広く開出	遅咲き	淡紫褐色（有柄で太棒状）	葉柄部と同長	伊豆半島・紀ノ国	付属体は筒部から短く露出。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○ナギヒロハテンナンショウ	１０ ～ ４０cm	１	放射状	小葉は５～７枚（葉軸は発達しない）。線形～狭楕円形で先は尖る。全縁	５月～６月／９月～１０月	■緑色を帯びた■紫褐色	隆起する白色の縦筋	狭三角状卵形（筒部より長い）	はとんど開出しない	早咲き	紫褐色（有柄で棒状）。先は色が薄く黄色かかる		兵庫県・隠山県・鳥取県	絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○コウヒロハテンナンショウ	１７ ～ ４０cm	１または２	放射状	小葉は５～７枚。菱状楕円形でときに波状縁面緑	６月～７月／９月～１０月	■緑色ときに■紫褐色	白条は目立たない	長三角形～三角状卵形（先は尖る）	開出しない	遅咲き	有柄で棒状（ときに棍棒状）	開口部は襟状に広がらない	本州（静岡県・山梨県）・四国・九州	絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○○ヤクシマヒロハテンナンショウ		１または２	放射状				幅が広い				太い		九州（屋久島）	シコクヒロハテンナンショウの亜種
○イシヅチテンナンショウ	１５ ～ ３５cm	１または２	放射状	小葉は５（～７）枚（葉軸はほとんど発達しない）。狭楕円形～披針形	６月／１０月	■紫褐色やや■緑色を帯びる（大型で５～８cm）	円筒状（上に向かって開く）	卵形で先が尖る			広炎苞とほぼ同色（有柄で太く棍棒状）	やや短い	四国	徳に不規則な斑紋。ユキヒトマムシグサとよく似るが系統は異なる。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○ユキヒトマムシグサ	１５ ～ ５０cm	２ときに１	放射状	小葉は５（～７）枚（葉軸はほとんど発達しない）。狭楕円形～披針形	５月／９月～１０月	■緑色ときに■紫褐色	淡緑色（白条は目立たない）	長卵形で先は次第に尖る（ときにやや鈍頭）	やや開出	早咲き	淡色で幽閉。太棒状（棒状～棍棒状）	緑色ときに黒紫色	本州中部・北部	果実は葉より高くつく
○○タガミテンナンショウ		２												ユキヒトマムシグサの紫色タイプ
○○タカネテンナンショウ		２											長野県・山梨県	ユキヒトマムシグサのハヶ岳周辺の地域個体群
○ヤマナカテンナンショウ		２ときに１	放射状		６月～７月／９月～１０月	■緑色ときに■紫色							山梨県（北呂周辺地域）	果実は葉より低い。ユキヒトマムシグサの変種として発表（大きさ色彩の変異が大きい）
○オオミネテンナンショウ	１５ ～ ５０cm	２ときに１	放射状	小葉は５（～７）枚（葉軸はほとんど発達しない）。狭楕円形～披針形	４月～５月／１０月	■汚紫色（ときに■緑色が交じる）	白条が目立つ	卵形（先は次第に尖る）	開出しない		棒状（やや棍棒状）。淡紫褐色（所がある）有柄	開口部は花序軸に密着	本州（静岡県・紀伊半島）	小葉はときに新面がある。絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○ミネテンナンショウ	１５ ～ ５０cm	２ときに１	放射状	小葉は５（～７）枚（葉軸はほとんど発達しない）。狭楕円形～披針形	５月／	■紫褐色（斑がある）	太い円筒状（上に向かって開く）	卵形（先はやや急に尖り鋭頭。内面は光沢がある）	やや開出	早咲き	棒状（直径５mm～）～棍棒状。広炎苞と同色		本州（岐阜県・長野県・福井県）	ザゼンソウのような雰囲気を持つ。絶滅危惧ⅠB類（VU）［環境省］
○ハリノキテンナンショウ	１０ ～ ３０cm	１	放射状	小葉は５枚。狭楕円形～披針形（葉軸はほとんど発達しない）	６月～７月／１０月	■淡紫褐色（やや■緑色を帯びる）	淡色	卵形（先はやや急に尖り鋭頭。内面は光沢がある）	はとんど開出しない		棍棒状（直径～３mm）。淡紫褐色（斑がある有柄）	短い	本州（新潟県・富山県・長野県・岐阜県・石川県・福井県）	
○タカハシテンナンショウ	１５ ～ ５０cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は（３～）５～７枚。楕円形～卵形（先は尖り全縁または細鋸歯緑）	３月～４月／６月～８月	■紫・褐オリーブ色（まれに■紫褐色・■黄緑色）	円筒状（白い縦筋）	三角状の卵形～広卵形	ごく狭く開出	早咲き	紫色を帯びる（有柄で棒状）	葉柄部と同長または長い	本州（岡山県・広島県）	絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○ハリママムシグサ	１５ ～ ３０cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は５～９枚。広楕形～披針形（ときに細鋸歯まではっきり波状の縦面）。中脈に白斑	３月～４月／６月～８月	■紫褐色・■黄緑色（まれに■緑色）	透明感が強い	卵形～長卵形（先がやや伸びて前に曲がる）	やや狭く開出		有柄で棒状		兵庫県	絶滅危惧ⅠB類（VU）［環境省］
○ナガバマムシグサ	１０ ～ ３５cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は９～２１枚。線形でときに不整の縦面（しばしば中脈に沿って白斑）	３月～４月／１０月	■紫褐色・■黄緑色（まれに■緑色）	やや狭く開出	卵形で先がやや伸び、前に曲がる	反り幅～３mm	早咲き	有柄で棒状		伊豆半島	（ナミウチマムシグサ？）
○ミミガタテンナンショウ	～７０cm	２	鳥足状	小葉は１１枚以下。広楕形～楕円形（ときに縦面と中脈に沿って白斑）	３月～５月／７月～８月	■黒紫色・■紫褐色・■黄花色（まれに■緑色）	白い縦筋が目立つ	卵形で先が尖る	耳状（開出部８mm～）		棒状～棍棒状		本州（東北・関東・中部地方東部・淡路島・高知県沖ノ島）	高知県沖ノ島産は広炎苞の耳がとくに著しく、軟部も長く反り返って、オキノシマテンナンショウとされたことがある
○ヒガシマムシグサ	～９０cm（大型）	２	鳥足状	小葉は（５～）７～１３枚。披針形～楕円形（ときに縦面、しばしば中脈に沿って白斑）	３月～４月／７月～８月	■紫褐色・■黄緑色（まれに■黄緑色）		卵形～狭卵形形（殺尖頭で前に曲がる）	耳状（開出部～８mm）	早咲き	有柄で棒状	長い（４～５０cm）	本州（関東・中部・広島県・山口県）・四国	ミミガタテンナンショウに似るが、広炎苞の耳が発達するかどうかが区別点
○○ハウチワテンナンショウ		２											箱根地域	ミミガタテンナンショウの高地型？
○○コウヤテンナンショウ（ヨシナガマムシグサ）		２					白条が目立つ						高知県	
○ウワジマテンナンショウ	１５ ～ ４５cm	２	鳥足状	小葉は（７～）９枚～（雄花）／１１枚～（雌花）。～２１枚。線形～狭楕円形	３月～４月／７月～８月	■紫褐色・■黄緑色		卵形～狭倒卵形（殺尖頭で前に曲がる）	耳状に開出		有柄で棒状		四国西部（愛媛県・高知県）	ナガバマムシグサに似るが、小葉が幅広く葉軸が発達。花序柄が長く広炎苞口部がむく開出する点が異なる
○オドリコテンナンショウ	１５ ～ ３０（～４０）cm	２	放射状	小葉は５枚（中脈に沿って白斑のある場合が多い）。葉軸は発達しない	５月／１２月	■緑色（稀は■紫がかることがある）		長卵形で先は次第に尖る	やや開出		棒状（淡色で有柄）	襟状に開出	本州（静岡県・神奈川県）	ユキヒトマムシグサに近縁。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○マムシグサ	～１２０cm	２	鳥足状	小葉は（７）～９～１７枚。披針形～楕円形。葉軸が発達。２葉あれば大きさの差が著しい	３月～４月／９月～１１月	淡緑褐色～■紫褐色（ときに■緑色）	平透明で縦の白筋	卵形～狭卵形（殺頭～狭卵形）	やや開出	早咲き	淡緑色（有柄で棒状～太棒状）		西日本（四国・九州・琉陸島）	暗い林床を好む。屋久島では広炎苞が紫褐色。徳島県では濃紫色で軟部が尖る。ブナ帯に分布するものは葉がしばしば１枚。
○○ヤクシママテンナンショウ		２				■紫褐色	はっきりした白筋が多い							絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○○コシミヅマテンナンショウ		２				■紫褐色	白条が目立つ						能児島県（甑島）	
○○アオオニテンナンショウ		１	鳥足状	小葉は５～９枚	４月～５月／１０月～１１月	■緑色	円筒状（白い縦筋）				緑色（棍棒状で先に向けやや膨らむ）			マムシグサの地域個体群？
○ハチジョウテンナンショウ	～１００cm	２	鳥足状	小葉は７～１５枚。楕円形で両端は尖る（全縁）。２葉は同大	３月～４月／９月～１１月	■緑色（まれに■紫色を帯びる）	円筒形（白い縦筋が目立つ）	卵形～狭卵形	やや耳状に開出		淡緑色（有柄で太棒状）		八丈島	ヒガシマムシグサ群の近縁種
○オガタテンナンショウ（ツクシテンナンショウ）	１５ ～ ２７cm	２	放射状	小葉は５～７枚。頂小葉は側小葉より長く同大かつ小さい。倒披針形～倒卵状披針形	４月～５月／１０月	■緑色	円筒形（白条は目立たない）	緑色で広卵形（鈍頭）。中央部が凹む			緑色で棒状（筒部から外に出ない）	襟状に開出	九州（宮崎県・熊本県・大分県）	九州（宮崎県・熊本県・大分県）産は葉が幅広く葉軸が発達。
○アマミテンナンショウ	１５ ～ ３０cm	１ ～ ２	鳥足状・掌状	小葉は５～７枚（楕円形～長楕円形）。粗い縦面と白斑のある場合が多い	４月～５月／１０月～１２月	■紫褐色ときに■緑色（茶質）	平透明の白い縦筋	三角状の広長卵形で前に曲がる（中央部は盛り上がる）	開出しない	早咲き	白色（有柄で太棒状）		静岡県（伊豆半島）	花序柄が短い。軟部は筒部より明らかに短い。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○トクノシマテンナンショウ	～５０cm	２	鳥足状	小葉は９～１３枚。狭楕円形で全縁	２月／	■緑色	やや細い円筒状（白い縦筋が目立つ）	三角状卵形～狭卵形（殺尖頭）	耳状に反曲	花と葉は同時展開	棍い棒状（広炎苞口部から明らかに外へ出る）		徳之島	朔状葉が発達してやや茶質。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○ホロテンナンショウ	２０ ～ ４５cm	１	鳥足状	小葉は７～１３枚（狭披針形～狭楕円形）。先は次第に狭まる	５月／９月～１０月	■淡緑色に■淡紫色を帯びる	太い白条が目立つ（やや平滑可）	卵形～狭卵形	耳状に反曲しない		棍棒状（有柄）	短い	本州（奈良県・和歌山県・三重県）	絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○アオテンナンショウ	～１００cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は７～１５枚。長楕円形で先は尾状に細くなる（ときに新面緑）	４月～６月／１０月	■淡緑色（まれに■紫色を帯び平透明）	上に開く（白条は目立たない）	三角状の卵形（先は細長く伸びる）。縁に沿って内側に曲がらない	やや開出	遅咲き	有柄で棒状（しばしば紫褐色に膨らむ）		本州（石川県・鳥山県・広島県）・四国・九州（大分県）	平透明の広炎苞を通して内部が見える（軟部が目立つ）。オキノシマテンナンショウの仲間で一番長い
○キジダマムシグサ（ムロウマムシグサ）	１５ ～ ５０cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は５～７（～９）枚。披針形～楕円形。葉軸が発達。しばしば中脈に沿って白斑（楕円形～広楕円形で先が尾状に伸びる）	３月～４月／１１月～１月	■淡紫褐色（微細な濃淡あり）白条があって平透明		三角状の長卵形（先は細長く伸び、斜め下に下がる＝ときに 25cm）	狭く反曲または開出	遅咲き	有柄で棒状（先端で直径３mm～）。しばしば上部が紫褐色	長く 20 ～ 75cm	四国（愛媛県＝アオテンナンショウよりも標高の低いところに分布）	葉は長楕円で尾状に細くなり、やや糸状に伸びる。カントウマムシグサとアオテンナンショウの自然交雑種
○ツクシマムシグサ	～６０cm	１（大きな株は２）	鳥足状	小葉は７～１７枚（しばしば縦面あり、先は尾状に伸びる）	６月／９月～１０月	■緑色または■紫色	円筒状	三角状卵形（微鋸面緑）。白条は幅広く集まって平透明（水平に伸びる）	狭く開出	遅咲き	有柄で棍棒状		九州	
○タシロテンナンショウ（ツクシヒトツバテンナンショウ）	～７０cm	ほとんど２（１）			５月／９月～１０月	緑色（まれに■紫褐色を帯びる）	白筋が目立つ	三角状広卵形（先は短く突出しやや内側に巻く）。筒部より短い	狭く開出	遅咲き	有柄で棒状～棍棒状（上部はやや前に曲がる）		九州（大分県・宮崎県）・能児島県）	
○ユキモチマソウ	２０ ～ ６０cm	１ ～ ２	鳥足状	小葉は３～５枚（葉軸は発達）。粗い縦面緑と白斑がある	４月～５月／１１月～１２月	■紫褐色。質厚くスポンジ状から革状	上部で急に開き狭く開出	倒卵形。鋭頭から鋭尖頭。直立または斜上（先端は内に巻いて尖る）		花と葉は同時展開	白色の棍棒状。先端は著しく頭状に膨らむ		本州（紀伊半島・兵庫県）・四国	絶滅危惧Ⅱ類（VU）［環境省］
○○アマガユキモチソウ		２											伊豆半島	栽培品の逸出かアマガテンナンショウとの誤同定？
○ヒリュウテンナンショウ（ヒメテンナンショウ）	１５ ～ ４０cm	１ときに２	鳥足状	小葉は５～９枚（葉軸はやや発達）。楕円形～卵状楕円形（ときに縦面・白斑）	４月～５月／１１月	■紫褐色で革質（前一下向きに曲がる）	円筒状で上に開く	三角状の長卵形（中央部から先は下に曲がって筒口をおおう）	開出しない		太棒状（しばしば白色）		九州（屋久島を含む）	屋久島産は小型がいさく、葉身がマムシグサに似る（筒部の上部が急に太くなる）
○ミヤトテンナンショウ		１				■緑色							宮城県	キリンマテンナンショウの緑色タイプ（花色が緑色～緑白色～褐白色と変異に富む）
○ヒトツバテンナンショウ	～６０cm	１ときに２	鳥足状	小葉は（５～）７～９枚。長楕円形（両端が細まりときに縦面炎）	５月～６月／１０月～１１月	■淡緑色（長さ～ 12cm）	円筒状	狭三角状卵形。先が尖りやや革質（両面とも緑色）	開出しない	遅咲き	淡黄色（有柄で棍棒状＝先端～３mm）。中央部でやや膨まり、上部で前に曲がる		本州（中部・関東・東北）	軟部内側は緑色で基部にハの字状の紫褐色の紋あり
○○クロハシテンナンショウ		１				上部が■紫褐色		内面全体が紫褐色					本州（中部・関東・東北）	
○○アキタテンナンショウ		１				■緑色		鋭鈍がない（ヒトツバテンナンショウ）					本州（東北地方）	秋田県で発見
○オモゴウテンナンショウ	２０ ～ ６０cm	１	鳥足状	小葉は７～１５枚。葉軸が発達	５月／	長さ 11cm～。内部は暗オリーブ色。下に垂れる		緑色。狭卵形～卵形。やや革質。鋭頭または鋭角に尖る（両端は反り返る）		遅咲き	有柄で棒状。先がわずかに曲がる。やや太い（先端で 2.5mm～）		中国（山口県・広島県）・四国（高知県・愛媛県）	広炎苞に不規則な紫斑。絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○ジョウテンナンショウ	３０ ～ ６０cm	１	鳥足状	小葉は７～１５枚。	５月／	■紫褐色（不規則な斑紋）	上に開いた円筒状	紫褐色。卵形～三角状広卵形（殺頭～殺尖頭）。紫褐色～赤紫褐色	耳状に開出	遅咲き	有柄で太棒状で直立		四国	絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○ヒュウガヒロハテンナンショウ	２０ ～ ５０cm	１	鳥足状	小葉は５～７枚。狭楕円形～楕円形（両端は尖り、全縁または細鋸歯緑）	４月～５月／１１月	■淡紫色または■緑色	了本以上の白い筋（平透明）	三角状卵形。幅～４.５cm	狭く反曲する		有柄で太棒状（白色）		九州（宮崎県・能児島県）	付属体は筒口部とほぼ同じ長さ。絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○セッピコテンナンショウ	２０ ～ ５０cm	１ときに２	鳥足状	小葉は５～９枚。広楕形～披針形（しばしば中脈に沿って白斑）	５月／８月	■紫褐色～■赤紫色（ときに■緑がかる）	５本以下の白い縦筋（円筒状）	卵形～三角状卵形。筒部より長く尾状に伸びて前上する	開出しない		棍棒状		兵庫県（雪彦山・笠形山）	絶滅危惧ⅠA類（CR）［環境省］
○マヤグチテンナンショウ	３０ ～ ５０cm	１ときに２	鳥足状	小葉は９枚（葉軸の先が上方に伸ます上がる）	５月～６月／１０月～１１月	■紫褐色（まれに緑色を帯びる）	太い筒状	黒紫色～紫褐色（まれに緑色を帯びる）。幅４.５cm～	耳状に張り出す	遅咲き	有柄で太棒状～棍棒状（紫褐色の斑があるかしばしば白緑色）	淡緑色または淡紫褐色（斑はほとんどない）	本州（伊豆半島・山口県）	（伊豆半島のものはイズテンナンショウ（ホソバテンナンショウとの交雑）
○ムロウテンナンショウ	～８０cm	２ときに１	鳥足状	小葉は９～１５枚（しばしば縦面緑）	４月～５月／１０月～１２月	■緑色または■紫褐色	円筒形	筒部より短く広卵形（基部はやや細く張り出す）	狭く開出	早咲き	有柄で下部がやややや太く、上に向かって細まる（上部はやや前に曲がる）。	開口はやや赤味が強い	本州（愛知県・岐阜県・福井県・近畿・中国地方東部）	軟部内面は細孔状突起に覆われ、著しいものは外面にも突出することがある
○ムルガテンナンショウ	～７０cm	２	鳥足状	小葉は９～１５枚。狭楕円形で両端が尖る（しばしば縦面緑）	５月～６月／１０月	■緑色	円筒形	狭卵形～卵形（殺尖頭）	狭く反曲する		有柄で棒状（斑緑色～淡褐色）。先端に長い棍棒		四国	絶滅危惧ⅠB類（EN）［環境省］
○ムラサキテンナンショウ	～９０cm	２	鳥足状	小葉は９～１５枚。狭楕円形で両端が尖る（しばしば縦面緑）	４月～５月／１１月	■緑色	円筒形で白筋は目立たない	緑色で広卵形～卵形。基部はほぼ耳状部に移行して開出	耳状に開出	遅咲き	淡緑色（有柄で棒状）。四口部からほとんどに出ない		本州（関東・中部）	
○アマガミヤママムシグサ		２	鳥足状	葉軸は中央部は発達しない		■緑色		緑色で白筋。卵形～卵状狭三角状卵形	開出しない		有柄で棒状		本州（静岡県）	広炎苞内面・付属は微細な孔面状突起が密生して白っぽい
○ミヤママムシグサ	～８０cm	２	鳥足状	小葉は９～１３枚。線状楕円形～狭楕円形（両端は長く尖り、葉軸はやや発達しない）	５月～７月／１０月～１１月	■緑色	口部に広がってやや開く	緑色。卵形とほぼ同長（棍状三角形で、下半分が透明）や不透明）	狭く反曲する	遅咲き	淡緑色（有柄で棍棒状）。上部は前に曲がる		本州（静岡県・山梨県・長野県・岐阜県・愛知県・兵庫県・鳥山県・鳥取県）	ホソバテンナンショウに似る
○スズカマムシグサ		２	鳥足状			■緑色	細筋状。軟部より長い	緑色ときに紫がかる（やや平透明）	開出しない		有柄で棒状。縦裂斑・三重斑・石川県・福井県）		本州（岐阜県・滋賀県・三重県・石川県・福井県）	ミヤママムシグサに似るが葉軸により発達する。標高の高いものは小型になる傾向が大きい
○ヒトヨシテンナンショウ	～１００cm	２	鳥足状	小葉は９～１７枚。披針形～狭楕円形（両端は尖ってしばしば縦面緑）	５月／９月～１０月	■赤紫褐色	白筋がない（外面はときに白粉）	卵形～広卵形。中央が盛り上がって花状に膨らむ（殺頭～殺尖頭）		早咲き	赤紫褐色（有柄で棒状、直立）		九州	多種との交雑個体が多い。
○ウメガシマテンナンショウ	～８０cm	２（１＝中国地方）	鳥足状	小葉は７～１５枚。披針形～狭楕円形（両端尖りしばしば縦面緑）	４月～６月／１０月～１１月	■淡緑色	円筒形（白筋あり）	卵形～広卵形。軟部の中央は盛り上がらない	狭く開出	遅咲き	淡緑色（有柄で棒状、直立）	地色は淡褐色。開口はやや赤味が強い	本州（静岡県・長野県・岐阜県・山梨県・兵庫県・中国）	ホソバテンナンショウに似る。分布域も重なる
○ホソバテンナンショウ	～１００cm	２	鳥足状	小葉は９～１７枚。披針形～狭楕円形（両端は尖ってしばしば縦面緑）	４月～５月／１０月～１１月	■淡緑色	円筒形（暗の白筋）	筒部より短く卵形～広卵形（殺頭～殺尖頭）	開出しで中央耳状（襟状に広がる）	早咲き	淡緑色（有柄で上に向かって細まり、直立あるいはやや前に曲がる）	開口はやや赤味が強い	本州（関東・中部・近畿・鳥山県）	色茎部は葉柄部よりはるかに長い
○ウンザンマムシグサ	～７０cm	２	鳥足状	小葉は７～１５枚。披針形～楕円形（両端は尖ってしばしば縦面緑）	４月～５月／	■緑色	円筒形（暗の白筋）	卵形～長卵形（殺尖頭で中央耳状に尖る）	わずかに開出	早咲き	先端～１.５mm（先端は曲がる）		長崎県（雲仙岳）	
○ヤマジノテンナンショウ	～７０cm	２	鳥足状	小葉は長楕円形（不揃いな縦面）	５月～６月／	■緑色または■紫色（やや太い筒状で平淡色）	軟部より長い	緑色で盛り上がる。内側は紫色でうねって隆起する縦く白い縦筋	開出しない		有柄で棒状		本州（中部・関東地北部）	形状はカントウマムシグサに似る
○ヤマザトマムシグサ	～７０cm	２	鳥足状	小葉は７～１７枚。	５月／	■紫褐色	筒状で白い縦筋。軟部と同長または長い	三角状卵形～広三角状卵形（下ム状に盛り上がり、先は前方に伸びる）	側面が急に広がる	花と葉は同時展開	有柄で棒状（広炎苞に隠れ目立たない）		本州（関東・中部）	
○コウライテンナンショウ	～１００cm	２	鳥足状	小葉は９～１７枚（狭針形～狭楕円形）。両端は尖り全縁	５月～６月／９月～１１月	■緑色	縦筋は平透明（中央が幅広い）	卵形～狭卵形（基部はくびれ、中央が盛り上がる）		遅咲き	淡緑色～淡黄色（有柄で棍棒状）	緑色～緑灰色	北海道（南千島含む）・本州・九州	
○○キタマムシグサ		２				■緑色		軟部中央が盛り上がり、平透明の白条が中央で膨らむ（長野県上高地・軽井沢）					中部（中部山岳・北陸）・東北・北海道以北	
○ヤマトテンナンショウ（カルイザワテンナンショウ）	～７０cm	２			６月／１０月～１１月	■淡灰色～淡色		紫黒色～紫褐色（まれに緑色で白条がある）狭い三角状で細長く尖る。平坦またはわずかに盛り上がる	狭く反曲する	遅咲き	有柄で棒状・棍棒状・頭状（上部が前に曲がる）。紫褐色の斑		本州（中部・三重県・奈良県）	ヤマトテンナンショウ（基準標本＝奈良県）。寺院都市中心に比較的狭い範囲に分布 カルイザワテンナンショウ（基準標本＝長野県軽井沢）。 軟部の長さや色に変異（長野県から岐阜県に点在）
○オオマムシグサ	～７０cm	１または２		小葉は全縁で数が多い 葉軸が斜め上に立ち上がり先が巻く	５月～６月／１１月	■淡色（白部は軟部と同色）	軟部と同長または短い	黒紫色～紫褐色（目立つ白筋）。卵形または狭卵形。やや乗れ下がる	やや広く耳状に開出（ときに耳状）	遅咲き	太い棒状～棍棒状。ときに頭状（紫褐色の斑あるいは白緑色）	ほとんど斑がない	北海道南部・本州	カントウマムシグサに比べ、より明るい湿った草原を好む
○カントウマムシグサ	～１２０cm	１または２	鳥足状	小葉は７～１７枚（長楕円形で両端が尖り、ときに縦面）	４月～６月／１１月	■緑色または■紫褐色	白い縦筋。軟部より長い	卵卵形～狭卵形	開出または反曲。狭い耳状	花と葉は同時展開または遅咲き	棒状ときに棍棒状または頭状（有柄）	やや開出	本州・四国（瀬戸内海沿岸）・九州・韓国（済州島）	朔状葉が大きい（基準標本産地＝箱根）。コウライテンナンショウに似る
○○アオマムシグサ		１または２												カントウマムシグサの緑色タイプ
○○ムラサキマムシグサ		１または２												カントウマムシグサの紫色タイプ
○アズミテンナンショウ		２		